

防災科研の「宝」を「力」にする。 ～防災の知の拠点～

理事
(兼) 先端研究施設利活用センター長 **安藤 慶明**

令和元年は暴風、豪雨による大災害に見舞われました。「百年に一度の大雨」「一級河川の破堤」「計画運休」という事態に注目すべきですし、災害が広域に及んだことも重く受け止める必要があります。今後もこうした極端気象はもとより、南海トラフ巨大地震や首都直下地震が発生すれば、さらに広域で甚大な災害につながる大きなリスクがあります。農業、工業など産業活動へのダメージは社会の機能、人々の生活へ直結するものと考えべきです。

国難災害の発生リスクに直面する我が国で、防災科研は防災研究の中核機関として、また、災害対策基本法の指定公共機関として、その任務を確実に果たす必要があります。今年は、阪神・淡路大震災から25年を迎えます。深刻な被害をもたらした大災害の苦い経験も、しっかりと教訓として生かし、確実に前進する年にしたいと思います。

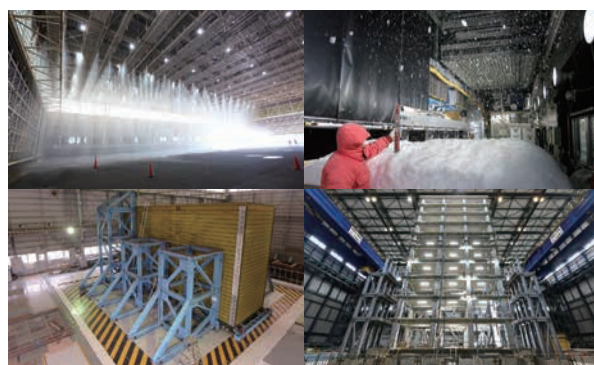
防災科研には、全国的な地震・津波・火山の観測網や世界最先端の大型実験施設があります。また、防災科学技術の研究の拠点として各種の基礎・基盤研究や

プロジェクトを進めてきており、その中で培った知識と技術があります。この研究成果や観測データをうまく情報プロダクトとして生かせば、「知」として社会の価値創出につなげることができます。これらは防災科研の「宝」であり、これを「力」に変えるべく、全所一丸となって取り組んでいます。そのために、卓越した人材が集う研究開発の拠点でありつづけたいと思います。

防災科研の知は、技術として社会に根付かせる必要があります。その歩みとして、防災科研では、地震、豪雨、雪氷の極限状態の再現も含めて多様な自然環境での実験を可能とする施設の強みを生かして、その利活用を産学公の共創で進め、防災の性能検証を狙いとして構造物の基準づくりや新技術の開発を支援する「先端的研究施設利活用センター」を設置し、私は昨年10月にセンター長を拝命しました。このセンターでは、各施設の戦略的な利活用を考える戦略室を置き、価値創出のための総合的な戦略づくりと、利用者本位で実験施設の利活用の促進を進めています。



先端的研究施設利活用センターの職員一同



(左上) 大型降雨実験施設 (右上) 雪氷防災実験棟 (下左) 大型耐震実験施設 (下右) E-ディフェンス(実大三次元震動破壊実験施設)